



Campus Life+1 グランプリ 夢実現レポート **完結編**

全国の大学・短大・専門学校に通う学生の夢を応援する「Campus Life+1」。約3500名の応募の中から見事グランプリを受賞した千葉大学大学院 岩井由実さんが、現在、仲間と取り組んでいることなど、夢に向かって動き始めた様子取材してきました。

2014度グランプリ受賞 岩井由実さんの夢

「Campus Life+1」とは…
全国の大学・短大・専門学校に通う
学生の皆さんから、
在学中に叶えたい夢を募集。
グランプリ受賞者には
夢を叶える資金として
上限100万円をプレゼント。



里山の種を保存・栽培する“シードバンク”を作りたい!



↑
種は呼吸しているため風通しのよい封筒に入れて保管。どの植物の種子なのかひと目でわかるように情報をラベリングしている。

→
今回の取り組みにおいて、研究室の先輩や教授も積極的に岩井さんを応援してくれている。岩井さんの知らない植物の知識を教えてもらえることも。



岩井由実さん(23歳)
千葉大学大4年生(取材時)
主に環境変化と植物の応答について研究している。幼い頃から自然が身近にあり、祖母の田植えなどを手伝っていた。

100万円の使い道…

Campus Life+1のグランプリ受賞で手に入れた賞金で購入した業務用の冷凍庫。種は花や葉と同様に生ものなので、気温の高いところでは長期保存が難しい。一定の温度で保管することが大切だと岩井さんは話す。



シードバンクをきっかけに農業を支えるネットワークを構築

グランプリを獲得した岩井さんがこの夢を持つに至った背景には、日本の美しい自然を残したいという思いがある。

「日本にはその土地でしか生息していない固有種が多いため、日本で絶滅してしまうと、種そのものが地上からなくなってしまう恐れがあるんです」

そこで岩井さんは、グランプリの賞金でまず種を保存するための冷凍庫を購入。加えて、他大学で種の保存の研究をしている人に連絡を取りアドバイスをもらい、安定して種を保管できるよう努めている。しかし、それだけでは、社会の役に立つことはできない。鍵を握るのは、農家の人たちの「コミュニケーション」と岩井さんは話す。

「農家の人たちが長年植物を育てている人たちは、研究者が知らない知恵を持っています。その知恵を情報として、種と一緒に農業をしたい人や貸し農園を運営している団体に提供できたらと考えています」

そしてこのシードバンクをきっかけに、後継者不足で悩む農家と農業をしたいと考えている人をつなぐネットワークを形成し、農業の未来に役立てたいと話してくれた。

**2015全国学生「夢」コンテスト(第3回)
“キャンパスライフ+1”開催決定!**

詳細は
こちらから!

エンタク

検索

<http://entac.jp/>